

校長室だより



真岡東中 校長室だより

No. 139

2020/03/02/Mon

卒業式あと7日 明日から臨時休校

日本最古の日蝕の記録 628年

遠山の金さん、江戸北町奉行となる 1840年

帝国大学令公布 1886年

フックス、世界初の南極大陸横断1958年

チーム東…生徒・家庭・教職員へ向けての校長通信

高め合い、磨き合い、感動し合い、「愛」いっぱいの真岡東中に！

真岡東中学校HPでもご覧いただくことができます

生徒・保護者の皆様へ

新型コロナウイルス感染症対策のために

3/3(火)～24(火)まで臨時休校となります！

ご理解とご協力をお願いします

すでに報道等でご存知かと思いますが、2/27(木)夜の安倍総理大臣の緊急会見により新型コロナウイルス感染症の予防対策として、全国の小中高校を対象に一斉に休校の要請がありました。それに伴い、真岡市でも緊急の会議を開いて対応を検討し、今回の臨時休校の決定となりました。状況によって変更が生じる場合がありますが、臨時の措置ですので、どうぞご理解とご協力をお願いいたします。

真岡市教育委員会の通知文

つきましては、本日3/2付で真岡市教育委員会からの通知文「小中学校 保護者様 新型コロナウイルス感染症対策のための休校の実施について」を配付いたします。内容は、以下の6項目になっています。

- ・決定事項
- ・お願い
- ・小学6年生、中学3年生の保護者の皆様へ
- ・給食費について
- ・事務連絡
- ・その他

どうか中身をよくお読みいただき、ご対応していただければ幸いです。

卒業式…3月9日(月)

感染症予防対策を十分に行ったうえで、規模の縮小と実施時間の短縮を図りながら、予定どおりに卒業式を実施いたします。残念ではありますが、規模の縮小に伴い、在校生とご来賓は出席しません。どうぞご理解をお願いいたします。

臨時休校中の学年登校日

進路関係の指導や学年のまとめなどをする時間がないままの臨時休校となってしまったため、次のように学年登校日を設定しております。

① 3学年登校日 … 3月 4日(水)

② 1・2学年登校日… 3月 16日(月)

なお、状況によっては延期または中止の場合もあります。その場合は、随時、学校から連絡をさせていただきます。

感染症の予防を！

本当に先が見えない、出口が見えない新型コロナウイルス感染症の広がりです。まさか、こんな形で3月を迎えるとは思っていませんでした。当たり前のように入試を迎え、卒業式を迎え、春休みのしおりを読みながら事前指導を行い、そして修了式を迎える。そんな当たり前のことができない悔しさが込み上げてきます。そういえば、9年前の東日本大震災の時も「当たり前」のことができなかったことを思い出しました。長い人生の中では何が起こるか分からないということを実感しています。

いずれにしても、今回の臨時休校という対応の本来の主旨は、「**全国の子どもたちを新型コロナウイルス感染症から守る**」ことです。ぜひ、この意味を踏まえた上で、家庭や地域におかれましては、引き続き感染症の予防対策をしっかり行っていただきたいと思います。

「校長室だより」について

3/24(火)に最終号を発行する予定でしたが、それが叶いません。そこで、臨時休校中は状況に応じてホームページにアップいたしますので、どうぞそれをご覧いただきたいと思います。よろしくをお願いいたします。

みんなで考えよう！ 何のために勉強をするのか？ … ⑤

吉田松陰(1830~1859年)の生き方から「立志」と「勉強」のあり方を考える … 吉田松陰は29年という短い生涯でしたが、松陰とその門下生が新しい国づくりに対して与えた影響は大きいものがあります。その源は激動の時代に「人はなぜ勉強するのか」という問題と真摯に向き合った結果、立てられた「志」であったというのです。

松陰は**黒船来航**という外国の脅威が迫る中、「日本の国を守るためには海外の事情を知らなければならない」と考え、密航を企てました。ところが失敗し、**鎖国の禁**により獄中生活を送ることになります。

しかし獄中で驚くべき努力を重ね、全力で勉強を続けました。

さらに、同じ牢獄に入っていた囚人を相手に中国古典の『孟子』の講義を行い、人間としての生き方を共に学び合ったのです。

いつ出獄できるか分からず、将来に対する夢も希望もなくしていた囚人たちは、なぜ心を動かされたのでしょうか。それは「人間らしい人間として生きるために学ぼう」という松陰の考えに共鳴したからにほかなりません。

吉田松陰の考えについて、岩橋文吉先生は次のように述べています。

松陰の考えている学問・勉学というのは、要するに全体としての人生の学であり、人生を真に人として人らしく正しく生きる道を明らかにすることを目指しているのです。だから、たとえ牢獄の中に囚われて二度と社会に出る望みも、晴れて太陽を仰ぐこともなくなったとはいえ、人間として一日の人生を生きるなら、その一日の人生を誠心を持って真実の人間らしい人間として生きようではないか。… (中略) …それゆえ、人が真の人として生きるために学問・勉学は一日たりとも怠ってはならないと考えるのです。
(岩橋文吉著『人はなぜ勉強するのか』)

持ち味を磨いた天野清三郎 … 吉田松陰の入獄から約1年後、やっと松陰は家に帰されることになりました。

しかし、無罪放免というわけではなく自宅謹慎処分でした。ここに近隣の青少年や松陰を慕う若者が集い、私塾の形になったのが、有名な松下村塾です。

その中に天野清三郎という手先の器用な生徒がいました。

天野清三郎は勉強が得意ではなく、師である松陰の死後は仲間の導きで勤王討幕運動に加わったものの「自分はこうした方面には向いてない」と感じていました。では何をしたらよいかと考え続ける中で、気づいたことがありました。

ヒントは、かつて松陰から聞いた話にありました。浦賀に来航した黒船をその目で見た松陰は「これに匹敵するような軍艦を造らなければ、日本の国を守ることはできない」と言っていたのです。

天野は「自分は勉強は嫌いだが、手を動かして物を作ることは好きだ」という自分の持ち味に気づき、「船大工になって日本の国を守る」という志を立て、造船の技術を学ぶためにイギリスへ渡ったのです。

そこで知ったのは、船を造るためには手先の器用さだけでなく、数学や物理学をはじめとする様々な学問が必要だということです。

勉強嫌いだった天野が、習ったこともない学問を英語で学ぶのですから苦労は大変なものでした。それでも天野は諦めることなく、アメリカにまで渡って勉強を続け、造船の技術を身に付けて帰国しました。

帰国後はその技術を頼みとされ、明治新政府の工部省に入り、長崎造船所の建設に尽力するなど、海運の分野から近代日本の発展に貢献することになったのです。